

## ジャパンフィッシュグランプリ2009・表彰式に参加して

北関東支部 遠藤和彦

### 【表彰式】

新年会を終えた翌週の2月13日(土)、横浜みなとみらいで開催される毎年恒例の国際フィッシングショーに行ってきました。例年と違って、今年はどうしても行かねばならない理由がありました。というのは、すでに前会報でご紹介したとおり、「ジャパンビッグフィッシュグランプリ」の表彰式に出席するためでもあったのです。今回改めて認識したこととして、このフィッシングショーは日本釣用品工業会が主催していたということです。この主催元がフィッシンググランプリを企画していたために開催中日の13:30という時刻に表彰式が設定されたわけです。

私設カメラマンに我が愛すべき愚妻をお願いし、そのために横浜中華街で豪華に(?)ラーメンと定食のランチ。そして地下鉄みなとみらい線で元町・中華街駅からみなとみらい駅まで約3分。今年は雨天のせいもあったが、会場前の通路でジグザグに待たされることなく、また当日券入場口と前売券入場口を分けて案内したせいもあって待つことなくすんなりと入場できた。

会場に着くともう係りの人が待っていて別室へ通され待つことしばし。やがて表彰対象者が集まり、といっても私ともう一人しかいない。その人はマダイ部門の優勝者である。名刺から見ると釣り船の経営者らしい。このほか鮎・ヘラ・ニジマスの3部門を一人で独占優勝した人がいたが、会場内で説明時間帯のために出席できないとのこと。こちらは釣りのインストラクター。やはりその道のプロのような方々が受賞しているのである。私のような趣味としての釣りが受賞するのはほんとにラッキーであったという気がしてきた。

表彰式の段取り、質問等のリハーサルがあり、本番の舞台裏へ移動した。文字通り舞台裏は書類や飲み物類が乱雑に置かれていて、その脇で司会者らしき人や賞状を渡すアシスタントの女性がしきりに台本を読んだり、メイクアップに余念がない。

そうこうしているうちにいよいよ出番となり、舞台袖からメインステージに上がった。司会のお姉さんから受賞者の紹介があり、ひとりずつ先ほどの工業会の副会長さんが表彰状を読み上げ、そして副賞の「野鯉500」をありがたく押し頂いた。司会からかねての打ち合わせ通り何か受賞のよろこびをとマイクを向けられ、お礼の言葉を述べた。舞台から見る観客席の方々のうらやましそうな視線にただただ頭を何度も下げ、殊勝な態度を見せるしかお返しの方法がなかった。



### 【会場にて】

表彰式を終えてほっとして愚妻のところへ行き、撮ってもらった写真を見て“やはり前もって撮影の練習をしておくべきだった”と反省しても後の祭りで1～2枚しかまともに写っていなかった。でも「OK、OK」。愚妻はうお座の割りには（関係ないかも？）釣りには全く興味がなく、夕食の待ち合わせ場所と時刻を確認してバイバイ。それから約3時間、あちこちを見て廻った。昨年はほとんどのブースでカタログを¥200～¥300で販売していたが、今回は販売するブースが数件しかなく、選んで集めても重くて持ちきれないほどのカタログが集まった。

ヨーロッパカープでは福安さんが、そしてマルキューコイエサでは坂入さんがそれぞれ説明をされていた。ダイワ（グローブライドと改名）もシマノもかつてのようなコイ釣り竿としての展示はなく、3～3.6mクラスの細くて硬い欧米スタイルのコイ釣り竿が展示されていた。

会場面積の半分はバスやシーバス釣りのルアー、ロッド、リールで長さ7～8m、幅2mほどの大型水槽には50cmクラスの大バスが数匹入れられていて、水槽上部のステージにはバスマンがマイクを胸につけて釣り方の説明をしていた。

鮎・コイ・ヘラといった純国産の釣りはややマイナーな釣りになっていて、メジャーは海釣り、そしてバス釣りなのかなという感じで会場を後にした。



【かろうじてダイワと読めるが、マークだけではわからない】



【サオの林立するシマノのブース】



【ヨーロッパカープフィッシング】



【釣り標語】

(北関東・小林功会員と同姓同名。でも別人でした。)

釣り人は  
海を育てる 守り人  
福島県 伊東伸也

広げたい  
水への感謝と 釣りマナー  
愛知県 小寺光雄

釣果より  
ゴミを出さない 心がけ  
鳥取県 門脇かずお

釣果より  
マナーを守る 腕自慢  
神奈川県 小林功